

ゼンマルチKXシリーズ 据付説明書・電気配線工事説明書

FDCP 224HKX3, 280HKX3

PSB012D809

適用室外容量 224・280

◎ 本説明書は“室外機と総合工事仕様”について示したものです。“室内機”については室内機に付属の“据付説明書”をご覧ください。
 ◎ 据付される前にこの据付説明書をよくお読みいただき、指示通り据付工事を行ってください。

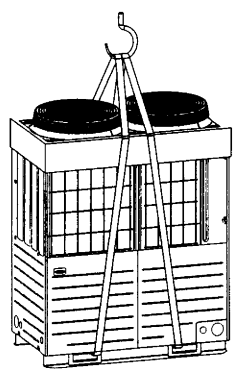
1. 据付の前に

1) 搬入

- 搬入経路を決めて、梱包のまま据付位置まで搬入ください。
- 吊上げる場合、ユニットを傷つけないように当て布などで保護し、2本の布製ロープにて吊上げてください。

お願い

- (ア) ロープは必ずユニットの固定脚の角穴部を通してください。
- (イ) ユニットとロープの接触面は当板、当布を沿えて傷つけないようにしてください。



2) 付属品

名称	個数	使用箇所
配線	2	サイレントモード、冷暖強制モードにて使用する場合に室外基板上のC・Nに挿入してご利用ください。

3) 室内機・室外機の組合せ

室外機	室内機	
	接続台数	接続合計容量
224	1~13	112~292
280	1~16	140~364

2. 据付

1) 据付場所の選定

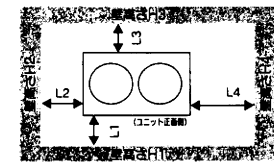
- 空気がこもらない所
- 他の熱源から熱輻射を受けない所
- 積雪で埋まらない所
- 据付部が強固である所
- ドレン水が流れてもよい所
- 吹出口に強風が当たらない所
- 吸込・吹出口に風の障壁物のない所
- 騒音や熱風が隣家に迷惑をかけない所

- お願い
- (ア) ショートサーキットの恐れのある場合は風向アダプタを取付けてください。
 - (イ) 複数台設置設置する場合は特にショートサーキットが生じないように吸込みスペースを十分確保してください。
 - (ウ) 積雪地では積雪で埋まらないよう架台および防雪フードを設けてください。
 - (エ) 降雪地での集中排水はしないでください。
 - (オ) 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所へは設置しないでください。
 - (カ) ユニットの重量に十分耐えられる場所に確実に設置してください。
- ※ 風向アダプタ、防雪フード、集中排水キット等の別売部品については販売店へお問合せください。

2) 据付スペース（サービススペース）

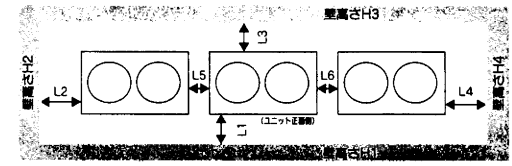
サービススペース（メンテナンス、人の通路、風路、現地配管スペース）を十分確保してください。（本図の施工条件にあてはまらない場合は、代理店または弊社にご相談ください。）

① 単機設置の場合



据付例	I	II	III
L1	500	500	開放
L2	10	50	10
L3	100	50	100
L4	10	50	開放
H1	1500	1500	開放
H2	制限なし	制限なし	制限なし
H3	1000	1000	制限なし
H4	制限なし	制限なし	開放

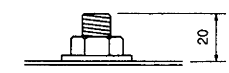
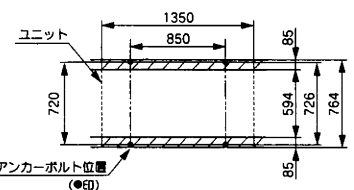
② 複数台設置の場合



据付例	I	II
L1	500	開放
L2	10	200
L3	100	300
L4	10	開放
L5	0	400
L6	0	400
H1	1500	制限なし
H2	制限なし	制限なし
H3	1000	制限なし
H4	制限なし	制限なし

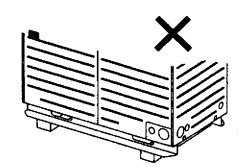
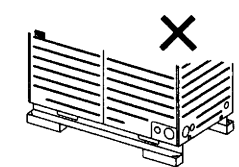
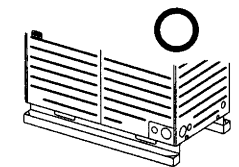
3) 据付時の注意

- (1) アンカーボルト位置
- アンカーボルト（M12）を4個使用して室外機の固定脚を必ず固定してください。ボルトの寸法は20mmが最適です。



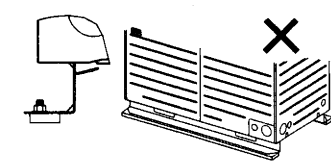
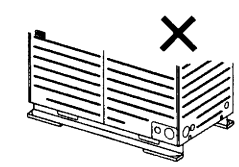
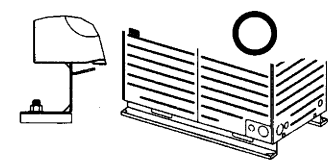
(2) 基礎

- 振動・騒音が発生しない、基礎強度・水平度を確認して設置ください。
- 基礎は上面にあります斜線部以上の範囲（室外機の固定脚前面以上）の大きさとしてください。



(3) 防振ゴム

- 防振ゴムの取付けは室外機の固定脚全面で受ける大きさとしてください。



ユニット固定部脚の下部全面が接地するように防振ゴムを設置してください。

ユニット固定部脚の下部が防振ゴムより出ていたり一部だけの設置はしないでください。

3. 冷媒配管

1) 配管の使用制限

- 延長（室外機から最も遠い室内機まで）…………… 100m以内
- 主管長（室外機から第一分岐まで）…………… 70m以内
- 分岐管長（第一分岐から室内機まで）…………… 40m以内
- （但し、室内機接続台数が13台以上の場合は30m以内かつ第一分岐以降の総和を440m以内）
- ヘッド
 - (1) 室外機が上位置の場合…………… 50m以内
 - (2) 室外機が下位置の場合…………… 40m以内
 - (3) 系統内の室内機間の長さの差…………… 15m以内

F
K
D
X
C

室外ユニット 15-2/4

2) 配管サイズ選定

(1) 分岐方式

- 分岐管サイズは室内機の接続容量（下流の合計容量）により異なりますので下表より選定ください。
- 分岐継手、異径継手のサイズは分岐管セット（別売品）を参照してください。

項目 / 区分		ガス管	液管
室外機	224	φ25.4	φ12.7
	280	φ28.58	
主管	224	φ25.4	φ12.7
	280	φ28.58	
分岐管	180以上	φ25.4	φ12.7
	180未満～101以上	φ19.05	
	101未満	φ15.88	
室内機	22, 28, 36, 45H	φ12.7	φ6.35
	56, 71, 80, 90H	φ15.88	
	112, 140, 160H	φ19.05	φ9.52
	224H	φ25.4	
	280H	φ28.58	

お願い

- (ア) 室外機と第一分岐継手は室外機のサイズに合わせてください。
- (イ) 各分岐継手と室内機間は室内機の配管サイズに合うように異径継手を選定してください。
- (ウ) 分岐継手（ガス・液共）は必ず“水平分岐”又は“垂直分岐”するように設置してください。



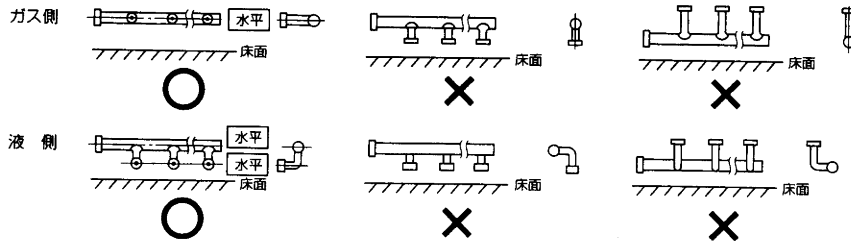
(2) ヘッダー方式

- 接続台数によりヘッダー分岐点（室内機接続側）つぶし管を接続してください。
- ヘッダー、異径継手、つぶし管のサイズはヘッダーセット（別売品）を参照してください。

項目 / 区分		ガス管	液管
室外機	224	φ25.4	φ12.7
	280	φ28.58	
主管	224	φ25.4	φ12.7
	280	φ28.58	
室内機	22, 28, 36, 45H	φ12.7	φ6.35
	56, 71, 80, 90H	φ15.88	
	112, 140, 160H	φ19.05	φ9.52
	224H	φ25.4	
	280H	φ28.58	

お願い

- (ア) 室外機とヘッダー間は室外機の配管サイズに合わせてください。
- (イ) ヘッダーと室内機間は室内機の配管サイズに合うように異径継手を選定してください。
- (ウ) ヘッダー（ガス・液側共）は必ず“水平分岐”するように設置してください。
- (エ) ヘッダーには、224H、280Hの室内機は接続できません。



3) ユニット配管仕様

配管材質は、リン脱酸同径目無銅管 (CT1220T, JIS H3300)

項目 / 区分		ガス管	液管
室外機	224	φ25.4	ろう付け φ12.7 φ12.7
	280	φ28.58	

- 接続配管径 配管仕様：外径×肉厚 (mm)
- φ6.35×0.8 (OL材) φ9.52×0.8 (OL材) φ12.7×0.8 (OL材) φ15.88×1.0 (OL材)
- φ19.05×1.0 (O材) φ25.4×1.0 (1/2H, H材) φ28.58×1.0 (1/2H, H材)

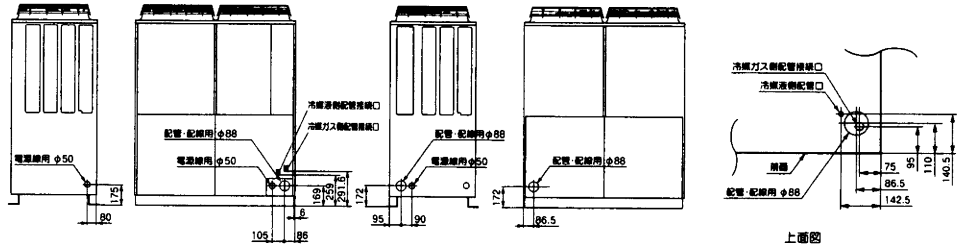
●締付トルク

φ6.35 フレアナット	14～18N・m (1.4～1.8kg・m)
φ9.52、φ12.7 フレアナット	34～42N・m (3.4～4.2kg・m)
φ15.88 フレアナット	68～82N・m (6.8～8.2kg・m)
φ19.05 フレアナット	100～120N・m (10～12kg・m)

4) 配管・配線接続位置

配管は前、右、後、下方向に接続可能です。配線は前、右、左、後、下方向に接続可能です。

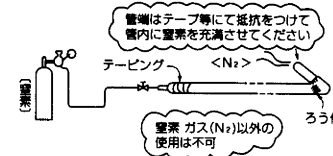
各方向接続穴位置と操作弁位置



5) 配管工事

(1) 現地配管施工

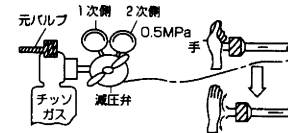
- ①ろう付けは必ず窒素ガスを流しながら行ってください。窒素ガスを流さないと多量の異物（酸化皮膜）が生成され、キャピラリーチューブ又は膨張弁結りによる致命的故障の原因となります。



- ②配管内部に水分、異物が入らないように、管端の養生（濡しろう付又は粘着テープによる）を十分に行ってください。



- ③フラッシングを行ってください。フラッシングは窒素ガスを約0.5MPaで流し、管端を手で塞いで、管内の圧力が上昇したら手を放してください。（この時、他の管端はプラグで塞いでください）



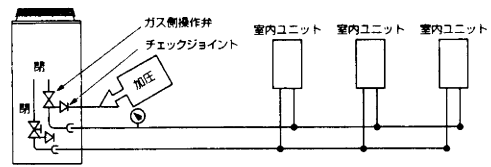
- ④現地配管施工は、操作弁を全開にして行ってください。
- ⑤操作弁と配管とのろう付けは、弁本体をステンシル等で冷やししながら実施してください。
- ⑥R407C対応機のため、フレア付け油としては、エステル油を推奨します。

(2) 気密試験

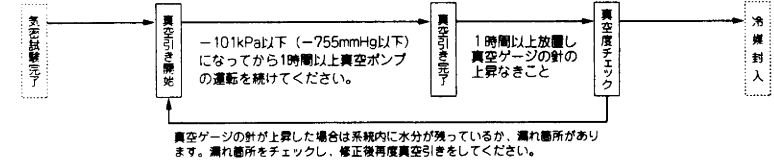
- ①室外機本体の気密試験は弊社にて実施済ですが、配管接続後、接続配管および室内機の気密試験を室外機側の操作弁のチェックジョイントより行ってください。尚、操作弁は必ず閉のままに実施してください。
- (ア) 0.5MPaまで加圧したところで、加圧を止めて5分間以上放置し、圧力の低下のないことを確認ください。
- (イ) 次に1.5MPaまで加圧し、再び5分間以上そのまま放置し、圧力の低下のないことを確認ください。
- (ウ) その後、規定圧力（3.3MPa）まで昇圧し、周囲温度と圧力をメモしてください。
- (エ) 約1日放置し、圧力が低下してなければ合格です。この際周囲温度が1℃変化すると圧力が約0.01MPa変化しますので補正を行ってください。
- ②窒素ガスによる加圧はガス側から行ってください。また窒素以外のは絶対使用しないでください。
- ③気密試験後の真空引きは必ず実施してください。

(3) 真空引き

液側操作弁チェックジョイントとガス側操作弁チェックジョイントの両側から真空引きを早く真空引きが完了します。
(片側のチェックジョイントだけでも真空引きはできます)



<作業フロー>



本機はR407Cのため下記点にご注意ください。

- 潤滑油の注入を避けるために、冷媒の種類により工具を使い分けてください。特にゲージマニホールド、チャージホースは絶対に他冷媒 (R22、R410A等) と共用しないでください。
- 真空コンプ油が冷凍システム内に侵入しないように、逆流防止アダプタを使用してください。

(4) 冷媒追加封入

冷媒の封入は必ずはかりを使用し計算封入してください。冷媒不足の状態では長時間運転されずと圧縮機の故障の原因となります。
(特に運転しながら冷媒封入する場合は必ず30分以内に完了してください。)
本ユニットには標準冷媒量 (配管長さ0mの封入量) のみに封入されています。

室外機	配管1m当たりの追加封入量 (液管サイズ)			工場出荷時冷媒封入量 (標準冷媒量)	
	φ12.7	φ9.52	φ6.35	室外機	備考
224	0.12kg/m	0.06kg/m	0.03kg/m	14kg	環地配管分は封入されていません
280				14kg	

● 冷媒の追加封入

液管サイズと長さにより追加封入してください。
追加封入量 = (I1 × 0.12) + (I2 × 0.06) + (I3 × 0.03)
I1 : φ12.7の合計の長さ、I2 : φ9.52の合計の長さ、I3 : φ6.35の合計の長さ

本機はR407Cのため下記点にご注意ください。

- 潤滑油の注入を避けるために、冷媒の種類により工具を使い分けてください。特にゲージマニホールド、チャージホースは絶対に他冷媒 (R22、R410A等) と共用しないでください。
- 冷媒の種類はポンペ上部に色表示 (R407Cは茶色) してありますので、誤り書きよう十分確認してください。
- チャージシリンダは絶対使用しないでください。R407Cをシリンダに移し換える際に冷媒組成が変化する恐れがあります。
- 冷媒封入は必ずポンペから液相で取出して行ってください。気相で封入すると冷媒組成が大きく変化します。
- ポンペからの液相取出時は、冷媒使用量90% (重量比) までを目安としてください

(5) 断熱・防露

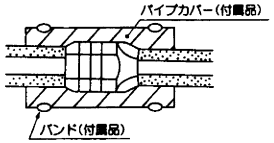
1) 冷媒配管 (ガス管、液管共) の防露断熱工事を行ってください。

防露断熱工事に不備があると、水漏れまたは露れが発生し、家財等を濡らす原因になることがあります。

2) 断熱材は耐熱性の良いもの (120℃以上) をご使用ください。

断熱不良や電線劣化の恐れがあります。

- ガス管は冷凍運転時、配管に結露したものがドレン水となり水漏れ事故などを防ぎ、また、暖房時は吐出ガスが流れ表面温度が高くなるため、人に接触し火傷などの危険があるため、必ず断熱してください。
- 室内ユニットのフレア接続部分は断熱材 (パイプカバー) で断熱してください。
(ガス管・液管共に断熱してください。)
- 本エアコンはJIS規格条件下で試験を行い不具合のないことを確認しておりますが、高湿度雰囲気 (室温23℃以上) で運転すると水滴が落下する恐れがあります。
このような場合、室内機本体及び配管、ドレン配管にさらに10~20mmの断熱材を取付けてください。

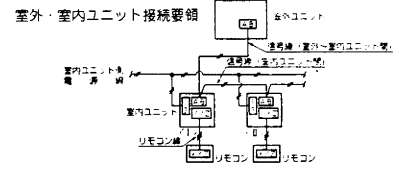
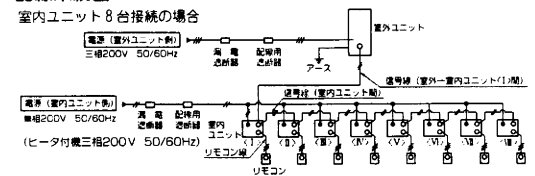


4. 電気配線

○電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。

- お願い
- (ア) 電線は類以外のものを使用しないでください。
 - (イ) 電源は、室外機・室内機それぞれ別電源です。
 - (ウ) 電気ヒータ (別売品) なしにて配線してあります。
 - 別売の電気ヒータを組み込む場合は、電源仕様、配線仕様及び配線個数が異なりますので、ご注意ください。
 - (エ) 同一系統内の室内機の電源は、必ず全て同時ON・OFFになるようにしてください。
 - (オ) アースを行ってください。アース線はガス管、水道管、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は感電や誤動作の原因になることがあります。
 - (カ) 漏電ブレーカの取付けが必要です。漏電ブレーカが取付けられていないと、感電や火災の原因になることがあります。電線工事が完了するまで入れないでください。サービスは電源を切ってから行ってください。

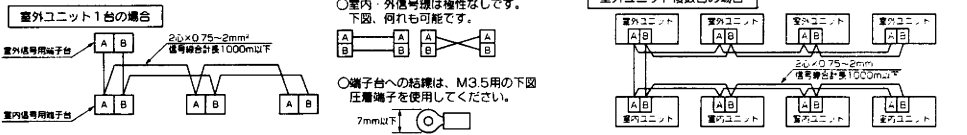
1) 配線系統図



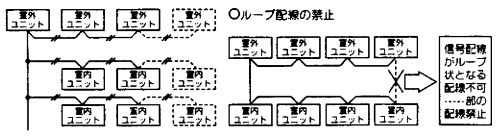
2) 信号線

信号線はDC5Vですので絶対に200Vの配線を接続しないでください。接続を間違えたとすべての基板が焼損しますのでご注意ください。信号線に極性はありますが室内・外機管共、同一系統番号線を接続してください。(AとA、BとB間を接続する。)

3) 室内・室外信号線



- 最大室内ユニット台数は4台までとし、室外ユニット同士、室内ユニット同士を2本の渡り配線方式とすることが可能です。
- 下図のように信号線を接続する方法も可能です。



4) 標準配線仕様

- 電源は、室外機・室内機それぞれ別電源です。
- 電気ヒータ (別売品) なしにて配線してあります。
- 別売の電気ヒータを組み込む場合は、電源仕様、配線仕様及び配線個数が異なりますので、ご注意ください。
- 室内機端子台の③端子は別売の補助ヒータ使用時のみ接続 (ヒータ用電源) してください。
- 接地工事はD種接地工事に準じて実施してください。
- 進相コンデンサは取付けしないでください。インバータが破損します。

5) 電源仕様

○室外機電源 (室内機は別電源)

機種	電源	電源用配線太さ (mm ²)	配線長さ (m)	配線用遮断機 (A)	漏電遮断機	アース線	
						太さ (mm ²)	ネジの呼び
224	三相200V	14	40	40	60A, 100mA 0.1sec以下	5.5	M5
280	50/60Hz	14	34	60	60A, 100mA 0.1sec以下	5.5	M5

お願い
(ア) 室内・内別電源の場合での室外機の電源仕様を示します。
(イ) 表中のこう長・配線太さは、電圧降下を2%以内とした場合のこう長・配線太さを示します。配線こう長が上記の値を超える場合は、内規規定に従い配線太さを見直してください。

○室内機電源 (室外機は別電源) と信号線

室内機合計容量	配線太さ (mm ²)	配線長さ (m)	配線用遮断機 (A)	漏電遮断機	信号線 (mm ²)	
					室外	室内
10A以下	2	23	20	20A, 30mA 0.1sec以下	2.0 × 0.75	同左
10A以上 15A未満	3.5	27	30	30A, 30mA 0.1sec以下	2.0	同左

お願い
(ア) 上表は標準仕様を示します。電気ヒータを取付ける場合は、三相200Vの電源を準備してください。
(イ) 表中のこう長は、室内ユニットを直列に接続した場合の値を示します。また、室内ユニット合計電流値に、電圧降下を2%以内とした場合の配線太さと最小のこう長を示しています。電流が上表以上の場合、内規規定に従い配線太さを見直してください。

6) リモートコントローラ配線仕様

- リモコン線は0.3mm²×3心が標準です。延長は600mまで可能です。100m以上の場合は、右表に示す配線を使用してください。

長さ (m)	配線太さ
100~200以内	0.5mm ² ×3心
~300以内	0.75mm ² ×3心
~400以内	1.25mm ² ×3心
~600以内	2.0mm ² ×3心

- リモコン線を他の電線と平行する場合、及び高周波電磁波等の外來ノイズを受ける場合は、シールド線をご使用ください。(シールド線は必ず片方のみアースしてください。)

室外ユニット 15-4/4

7) ユニットのアドレス設定

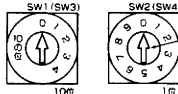
- アドレス設定方法は、自動アドレス設定、リモコンアドレス設定、手動アドレス設定の3方法が、室内・室外のアドレススイッチの組合せ(表参照)により可能となります。電源をONする前にアドレススイッチを操作してください。
- 同一系統内における3方法の選定は不可とします。

アドレス設定方法	室外ユニット	室内ユニット	
	室外 No.	室外 No.	室内 No.
自動アドレス	49	49	49
リモコンアドレス	00~47	49	49
手動アドレス	00~47	00~47	00~47

○ アドレスNO. 設定

基板上的設定SW1~4、室外基板上的設定SW1、2を下の様に設定してください。

室内基板	SW1, 2 (青色)	室内No. 設定用 (10の位と1の位)
	SW3, 4 (緑色)	室外No. 設定用 (10の位と1の位)
室外基板	SW1, 2 (青色)	室外No. 設定用 (10の位と1の位)



この欄に合ドライバー(薄板ドライバ)を差し込みながら電線を合わせてください。

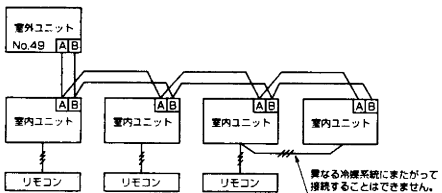
		SW2 (SW4) 1の位									
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
SW1 (SW3) 10の位	0	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09
	1	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
	2	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
	3	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
	4	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49

48、49は自動アドレス、又はリモコンアドレス設定に使用します。

- (1) 室外NO. は室外基板と室内基板上にあり、どの室外ユニットとどの室内ユニットが冷暖配管で結ばれているかを示すNO. であり、冷暖配管で結ばれた室内・室外ユニットは同一NO. となるようにしてください。
- (2) 室内NO. は室内ユニットを認識するためのNO. です。重複しないようにしてください。

(ア) 自動アドレス設定

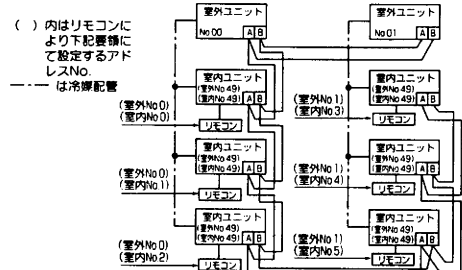
室外ユニット単位で配線をする場合に可能です。



- (1) 室外ユニットのアドレススイッチを49にしてください。(出荷時は49にセットしています)
- (2) 室内ユニットのアドレススイッチを49にしてください。(出荷時は49にセットしています)
- (3) 室外・室内の順に電源を入れてください。自動アドレスが設定されます。自動アドレス設定は室内・外共電源ONの状態でも可能です。室内ユニット電源のみON状態ではリモコンに「室外NO.」を表示しますので室外電源を入れてください。
- (4) 電源投入後、約1分でNO. セットされます。
- (5) NO. セット後、リモコンの点検スイッチを押すと室内ユニットのアドレスが表示されます。室外ユニットのアドレスは表示されません。
- (6) 1つのリモコンで複数制御する場合でも自動アドレス設定が可能です。但し、異なる冷暖系統にまたがっては接続できません。
- (7) 1度セットされたアドレスは電源を切ってもマイコンに記憶されています。
- (8) 室外ユニット単位で配線してもリモコンアドレス設定、手動アドレス設定が可能です。

(イ) リモコンアドレス設定

複数台の室外ユニット、室内ユニットをスーパーリンクにより配線し、室内機1台に対し1台のリモコンを接続した場合に可能です。

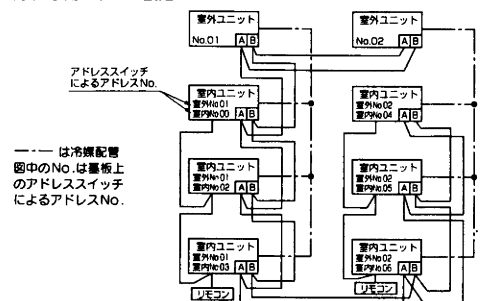


- () 内はリモコンにより下記電線に設定するアドレスNO.
- は冷暖配管

- (1) 室外ユニットのアドレスを他の室外ユニットと重複しないように00~47の間でセットしてください。
- (2) 室内ユニットのプリント基板上のアドレススイッチは出荷時の49のままとしてください。
- (3) 電源を投入してください。
- (4) リモコンに「しばらくお待ちください」という表示がでた後、アドレスセットモードに入ります。表示が「室外No. 設定」→「室外 -- ▲」(点滅)と切り替わります。*室外ユニットの電源がOFFの場合および室外機との通信確認中の場合は、「室外機電源を入れてください」という表示が点灯します。室外機との通信が行われた時点で、「室外 -- ▲」表示となります。
- (5) 室外NO. をセットします。「▲」スイッチを押す毎に室外No. が00~01~02と増えつきます。また、「▼」スイッチを押す毎に47~46~45と減っていきます。室外機の設定No. のところで止めてください。
- (6) 「セット」スイッチを押すと、室外NO. の点滅が点灯に変わり、室外No. がセットされます。続いて、「室内No. 設定」 という表示がでます。*ここで、設定した室外NO. を変更したい場合は、「リセット」スイッチを一度押し、「室外NO.」が再び点滅し、アドレス変更ができます。
- (7) 室内No. も室外NO. と同様、「▲」又は「▼」スイッチにて設定します。
- (8) 設定後、「セット」スイッチを押すことにより室外NO. 及び室内NO. のセットが完了し、設定した「室外NO. 室内NO.」の表示を2秒間点灯後、停止状態に戻ります。
- (9) 以上にてアドレスのセットが完了します。

○自動アドレス設定又はリモコンアドレス設定によってセットされたアドレスの配線方法
リモコンの「点検」スイッチと、「タイマ」スイッチを押しながら、「電源」スイッチを同時に押ししてください。アドレスの配管が消滅されます。その後、室内・外の電源をOFFすれば、アドレス未設定の状態に戻り、アドレススイッチの組み合わせにより、再度3つのアドレス設定方法が選択できます。

(ウ) 手動アドレス設定



- (1) 室外ユニットアドレスを室外ユニットのプリント基板上のアドレススイッチ(緑色)にて他の室外機と重複しないよう00~47の間でセットしてください。
- (2) 室内アドレスのプリント基板上のアドレススイッチ(緑色)にて、室外NO. を冷暖配管で結ばれた室外機のNO. と同一に設定します。
- (3) 室内アドレスの室内NO. をアドレススイッチ(青色)にて、接続されている全てのユニットの中で重複しないよう00~47の間でセットしてください。

●制御の切換: 室外ユニットの制御内容は、下記方法にて切換可能です。

制御切換方法	制御切換内容
基板上 (SW3-2) をON+基板上 (SW3-3) をON	インバータコンプのみによるバックアップ運転
基板上 (SW3-2) をON+基板上 (SW3-3) をOFF	一定速コンプのみによるバックアップ運転
基板上 (SW3-4) をON	コンプ稀釈保護制御のキャンセル
基板上 (SW3-5) をON	室内・室外接続アンマッチチェック
基板上 (SW3-7) をON	冷凍強制モード (CnG1からの信号により冷房又は暖房を固定できます)
基板上 (SW5-2) をON+基板上 (SW5-3) をON	冷房試運転
基板上 (SW5-2) をON+基板上 (SW5-3) をOFF	暖房試運転
J7	デフロスト切換 (デフロストに入り易くなる)
J8	防露対策 (外気露3℃以下で10分間10秒間室外機ファンをONする)
J11	外部入力 (CnS1) 切換、出荷時レベル入力、切断でバリス入力
J14	デフロスト対策

5. 引き渡し

1) 運転を始める前に

- (1) 電機部品端子と接地面を500Vメガで測って1MΩ以上であることを確認してください。
- (2) 運転6時間前には必ずクラックケースヒータに電圧をください。
- お知らせ
クラックケースヒータ通電後6時間以上たないと圧縮機が運転しない場合があります。(圧縮機保護のため) この場合室外基板のSW3-4をONにすれば運転可能になります。但しサービス運転終了後、必ずOFFに戻してください。
- (3) 圧縮機底部が暖かくなっていることを確認してください。
- (4) 室外ユニットの操作弁(ガス・液相)は必ず全開にしてください。閉のまま運転しますと圧縮機が故障する場合があります。
- (5) 全室内機の電源が入っていることを確認してください。一部の室内機の電源が入っていない場合、水漏れになります。

2) 試運転

室外基板のSW5-2とSW5-3のスイッチにより、CnS1のON/OFFにかかわらず室外から試運転ができます。

SW5-2 試運転(ON)→通常(OFF)	ONすることで接続されている全ての室内機を運転します。冷房・暖房の選択はSW5-3の入力により決めてください。	OFFすることで、リモコン又は外部入力により運転できます。
SW5-3	ONすることにより、SW5-2がONのとき、冷房試運転となります。	OFFすることにより、SW5-2がONのとき、暖房試運転となります。

試運転終了後は、SW5-2をOFFとしてください。

3) 冷房試運転

リモコンを次の手順で操作してください。

- (ア) 冷房試運転の開始
 - ① 「運転/停止」ボタンを押して、運転します。
 - ② 「運転切換」ボタンにより、「冷房」を選択します。
 - ③ 「試運転」ボタンを3秒以上押しします。
[項目]で選択し→「[セット]で決定」→「冷房試運転」▼と、表示が切り替わります。
 - ④ 「冷房試運転」の表示で、セットボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は、「冷房試運転」となります。
- (イ) 冷房試運転の解除
 - ① 「運転/停止」ボタン又は、温度設定[]ボタンを押すと、冷房試運転を終了します。
「冷房試運転」表示が消灯します。

4) 室内・室外接続アンマッチチェック

室外基板のSW3-5、「SW5-2」、「SW5-3」によりリモコンのON、OFFにかかわらず、室外からの配管系統と信号線・号機設定のアンマッチをチェックできます。

(ア) 運転のしかた

- 「SW3-5」、「SW5-2」、「SW5-3」をすべてONにしてください。

(イ) チェック結果

	室外側	室内側
正常	アセグ表示「---	表示なし
異常	赤LED	リモコンにE30を異常ユニットNO.の表示

(ウ) 注意点

- 室内・室外接続アンマッチは室外機1台毎に全室外機行なってください。同時に複数室外機でチェックを行うと誤検知の恐れがあります。
- 信号線の未接続のユニット及び電源のきていないユニットはチェックできません。
- アドレスを変更した場合は必ず電源を切ってください。電源を入れたままではアドレス変更できません。(異常表示のリセットはリモコンで可能)
- 正常時のアセグの点滅はSW3-5をOFFすることにより通常表示に戻ります。

5) 引き渡し

- 密付、試運転完了後、室内ユニット付属の取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの方法を説明してください。また、この取扱説明書は室内ユニット付属の取扱説明書とともにお客様にて保管頂くようにご依頼ください。
- 長時間運転しない場合でも、電源スイッチは切らないよう指導ください。暖房や冷房運転をしたいときいつでも運転が可能となります。(クラックケースヒータにより圧縮機底部が暖められているためシーズンインの圧縮機トラブルを防ぐことができます。)

6. サービス時の注意

- (1) 異種油の混入を避けるために、冷凍の種類により工具類を使い分けてください。
- (2) 冷凍機油への吸着を避けるために、冷凍回路の開放時間は極力短くしてください。(10分以内としてください。)
- (3) 冷凍機油が発生した場合は、追加充填を行うとシステム内の冷凍組成が変わり能力不足などが発生しますので、規定量の新規冷凍機油を再充填してください。
- (4) その他配管施工、気密点検、真空引き、冷凍剤入に関しては「3. 冷暖配管」をご覧ください。

6) 故障診断

ユニットに貼り付けている結線図を参照ください。

7) アセグLED表示

表示切換スイッチにより、データを表示できます。表示内容はユニットに貼り付けている結線図を参照ください。